

イヴニングサロン

夕食前のひとときを愉しむ、博物館展示室でのミニコンサート。
 素敵な楽器と音楽につつまれてみませんか。

10/24 土

今宵はシューベルト

～19世紀ウィーンのフォルテピアノで聴く～



演奏 七條恵子



使用フォルテピアノ:
 A.シュタイヒャー作 1815年頃
 ウィーン(楽器博物館所蔵)

プログラム

- 4つの即興曲 Op.142-1 D.935
 第1曲 へ短調 / 第2曲 変イ長調 / 第3曲 変ホ長調 / 第4曲 へ短調
- 2つのスケルツォ D593
- 創作主題による10の変奏曲 D156 変ロ長調
- ピアノソナタ D959 イ長調

七條恵子(しちじょうけいこ)

桐朋学園大学卒業、東京芸術大学大学院古楽科フォルテピアノ科修了。2004年ブルージュ国際古楽コンクール、フォルテピアノ部門最高位並びにミンコフ賞受賞。2006年ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン「熱狂の日」音楽祭にモーツァルトのピアノ協奏曲のソリストとして出演。同年ブルー・ジュ国際古楽コンクール、モーツァルト・アンサンブル部門で、山口幸恵(ヴァイオリン)とのデュオが第1位。2009年ドイツ、トロッシゲンの国際古楽コンクール「A Tre」で、山口幸恵(ヴァイオリン)、ヒデオ・デン・ヘルダー(チェロ)とのピアノトリオ「Trio Otono」が第1位。2002年よりアムステルダム音楽院にてスタンリー・ホッホランドのもとで研鑽を積む。2008年同音楽院修士課程修了。同年9月よりベルギー王立ゲント音楽院にて、ダーン・ファンデヴァレのもとで現代音楽のスペシャライズを行なっている。

12/19 土

チェンバロの夕べ

～2008年度古楽コンクール〈山梨〉最高位受賞者による～



演奏 会田賢寿



1987年から毎年開催されている古楽コンクール〈山梨〉は、日本で唯一の古楽コンクールとして、優れた人材を数多く発見・育成してきた。入賞者はその後も国内外の第一線で活躍を続け、海外でのコンクールでも優れた成績を修めている。2009年5月に開催されたコンクールのチェンバロ部門では、1位なしの2位が2人。今回はその中の1人で、現在パリ音楽院にて研鑽中の若きチェンバリストが腕前を披露する。

プログラム

- イギリス組曲 第4番 へ長調 BWV809 / J.S.バッハ
- ソナタ / D.スカルラッティ
- ソナタ 二長調 Hob. XVI/24 / J.ハイドン 他

会田賢寿(あいだたかひさ)

1983年千葉県千葉市生まれ。2003年東京芸術大学音楽学部器楽科古楽チェンバロ専攻入学。在学中に、チェンバロを鈴木雅明に師事。またノエル・スピート、エミリア・ファディーニのマスタークラスを受講。2007年、学内にてアカンサス音楽賞を受賞し卒業。ソロ、通奏低音奏者として室内楽やオーケストラ、合唱団に参加し活動を展開するほか、2005年(東京・歌舞伎座)と2007年(福岡・博多座)には蜷川幸雄演出による歌舞伎「NINAGAWA十二夜」のチェンバロ奏者として出演。また「アンサンブル室町」のメンバーとして北とびあ国際音楽祭に参加。邦楽器と西洋の古楽器のための新曲初演等を行った。2008年秋に渡仏し、パリ国立高等音楽院古楽科にてチェンバロをオリヴィエ・ポーモン、通奏低音をフランティヌ・ラヌー、室内楽をケネス・ワイスに師事している。第23回古楽コンクール(山梨)チェンバロ・ソロ部門にて最高位(第2位)を受賞。



7月19日に行なわれたイヴニングサロン「19世紀懐かしのプラスの響き」では、現代の楽器とは異なる性質を持つ19世紀の金管楽器を使い、音量ではない豊かな響きを紹介しました。夜の展示室で展示楽器に囲まれてのコンサートはなかなか良い雰囲気です。

会場/楽器博物館地下展示室ホール

開演/18:30 定員/70名

入場料 800円 申込み/電話で楽器博物館へどうぞ

申込み受付中

053-451-1128

楽器博物館